


# 1. 「地域資源を活かし、大学等との連携による、 ゆすはらの生きる仕組みづくり」

「地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議」資料

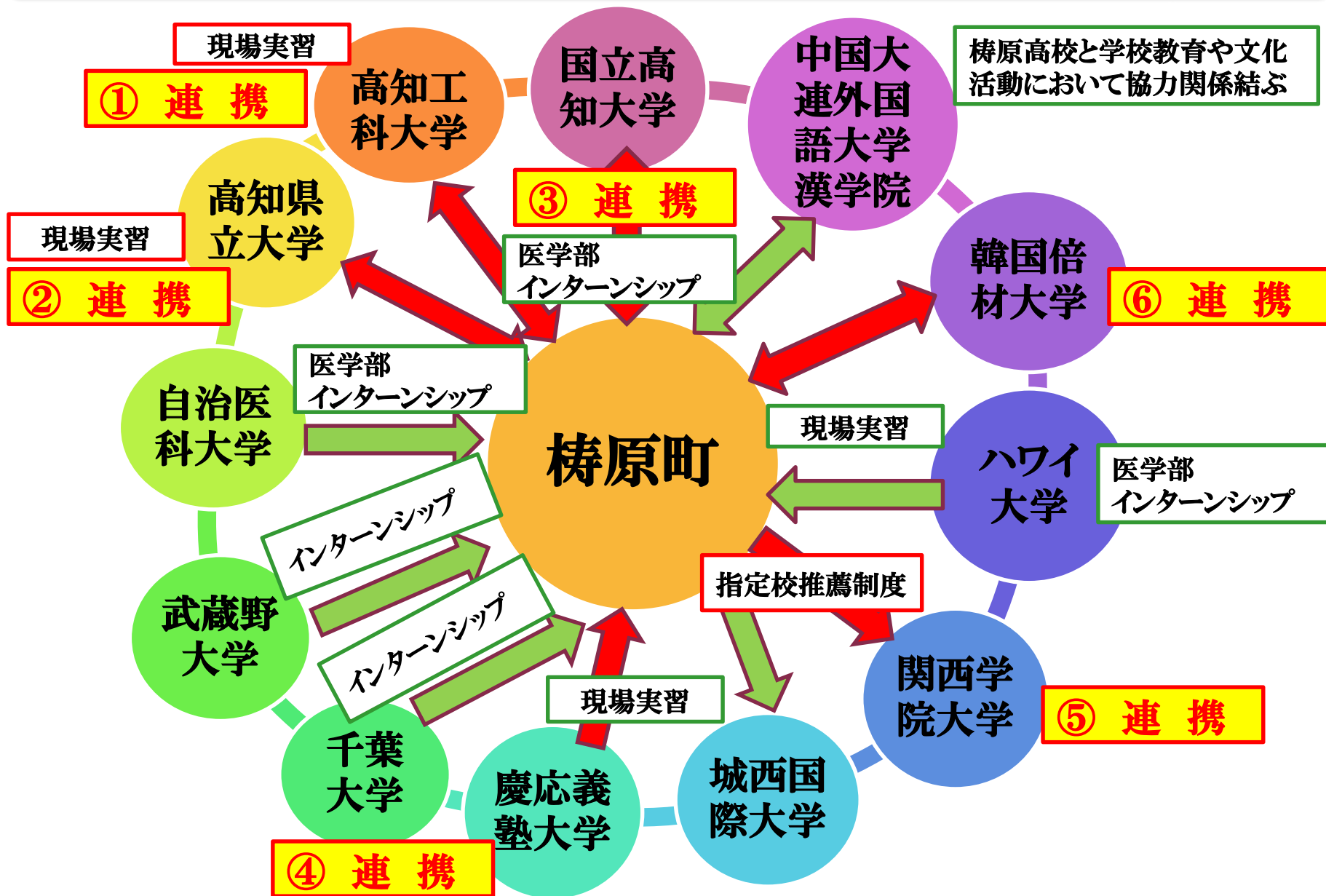


町営風車

日本三大カルストの一つ四国カルスト台地

平成29年3月2日 高知県梶原町長 矢野富夫

## 2. 梶原と国内外の大学と交流・連携について（12大学）



### 3. 高知県内の大学について

県内出身者 28.3% 県内就職者 24.4%

#### ☆高知工科大学

- 所在地：高知県香美市（高知市より東に車で45分）
- 入学定員：520人
- 学部：システム工学 環境理工学 情報学 経済・マネジメント学
- 在学生数（H28）：2,145人（うち県内出身 578人 26.9%）
- 就職者（H27卒業）：452人（うち県内就職 59人 13.1%）

キャンパス



#### ☆高知県立大学

- 所在地：高知県高知市（中心部より車で20分）
- 入学定員：340人
- 学部：文化学部 看護学部 社会福祉学部 健康栄養学部
- 在学生数（H28）：1,311人（うち県内出身 580人 44.2%）
- 就職者（H27卒業）：261人（うち県内就職 97人 37.2%）

池キャンパス



#### ☆国立高知大学

- 所在地：高知県高知市（中心部より車で20分）
- 入学定員：1,075人
- 学部：人文社会科学部 教育学部 理工学部 医学部 農林海洋科学部  
地域協働学部（H27.4新設 地方自治体と連携協定 県・14市町村）
- 在学生数（H28）：4,457人（うち県内出身 1,085人 24.3%）
- 就職者（H27卒業）：817人（うち県内就職 218人 26.7%）

朝倉キャンパス



## 4. 高知工科大学と連携

① 連携

平成24年9月に高知工科大学マネジメント学部「中川善典准教授」の他8名の学生が、町外、県外からの定住に関する施策を有効に進めてゆくためには定住を果たし人や受け入れ側の人の認識を把握し、これまでの課題を見出し今後の施策を検討するために、「若者定住促進等に関する」調査を委託するとともに若者定住対策審議会の委員やアドバイザーになっていただき交流、連携を図っている。

町から中川准教授に「都市から田舎への移住者の意識調査」を依頼し、そのデータから30歳から40歳を中心に、移住・定住のPR活動を積極的に始めた。

中川善典  
准教授という「人」

☆移住条件の第一希望は、雇用ではない！  
「家・住環境であることがわかった。」

☆空き家改修完成件数：32棟33戸（平成25年～平成28年11月末）

- ・空き家住宅入居者（移住者）：70人（うち子ども20人）
- ・平均年齢：大人 35.4歳 / 子ども 4.6歳

☆総移住者数：92人（うち子ども24人）

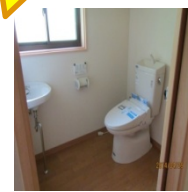
- ・平均年齢：大人 36.3歳 / 子ども 5.7歳

※現在、空き家改修中 5棟5戸 / 今年度末で37棟38戸

空き家改修とあわせて移住者が増加する。



若定審議会状況



# 5. 高知県立大学との連携

## ② 連携

平成25年6月に高知県立大学社会福祉学部「田中きよむ教授」に梶原町の**各種委員**や**アドバイザー**になっていただき、以来梶原町内の各区や集落に入り、**地域学習**を行うとともに、**社会福祉士相談援助実習**を行うなど、**交流、連携**を図っている。

平成26年4月に設立した新たな梶原町社会福祉協議会の職員として卒業生を雇用した。



現場実習状況

高知新聞に掲載される

高知新聞に「ただ今」のインタビュー記事が掲載されました。田中先生は、高知新聞のインタビュー記事で、梶原町の社会福祉協議会の設立について、地域学習の重要性について、そして、卒業生が協会の職員として働くことについて、詳しく話されました。

高知新聞に掲載される

高知新聞に掲載された記事の抜粋：「ただ今」のインタビュー記事。田中先生は、高知新聞のインタビュー記事で、梶原町の社会福祉協議会の設立について、地域学習の重要性について、そして、卒業生が協会の職員として働くことについて、詳しく話されました。

高知新聞に掲載される

高知新聞に掲載された記事の抜粋：「ただ今」のインタビュー記事。田中先生は、高知新聞のインタビュー記事で、梶原町の社会福祉協議会の設立について、地域学習の重要性について、そして、卒業生が協会の職員として働くことについて、詳しく話されました。

田中きよむ教授という「人」

29年4月に卒業生2名雇用予定



ゆすはら複合福祉施設（平成30年4月オープン予定）  
～「自宅で、暮らし続けたい」その思いを叶える～

複合福祉施設 雇用の創出：27人  
受入住宅整備：空き家改修住宅、移住定住雇用促進住宅

# 国内外研究機関との連携とJICAと協働した**国際的研究プロジェクト**の推進

平成28年に高知大学総合研究センター防災部門「**原忠教授**」と連携し、**梶原**には「蛇籠構造物」の技術者がまだ残っており、土木インフラがほとんど普及していない「**ネパール連邦共和国**」において、**ネパール震災の復旧と防災に取り組む**こととした。将来の人づくりと国際交流に繋がる。☆  
平成29年3月から着手

原教授と常に意見交換



高知大学+梶原町+ネパール郡



原教授と常に意見交換



**原忠**  
教授という「人」

# 7. 慶応義塾大学（学長及び教授）との連携

## ④ 連携

昭和62年から交流のある建築家「隈研吾氏（東大教授）」が平成15年に、地域の木材を利用したサステイナブルな建物を目指した、**梶原町総合庁舎の建築**の設計をしていただきました。当時は、慶應義塾大学の教授をしており、慶應義塾大学の教授の皆さんがそれぞれの分野を担うことになり、全国でもめずらしいと言われた、**設計管理業務の委託契約を「慶應義塾大学長」と「梶原町長」で締結し**、平成18年度に完成し、その後、毎年慶應義塾大学生が木や屋内の温度状況調査研究に訪れている。（2020年東京オリンピック・パラリンピックのメインスタジアム設計者）  
隈研吾氏は、梶原のまちづくりに取り組んでいただいている。



梶原町総合庁舎

建物



梶原は新国立の原点  
設計の隈研吾さん 思いを語る



雲の上のホテル・レストラン



町の駅・マルシエユスハラ

総合庁舎は、フランスの建築大学の資料となっている。

隈研吾  
という「人」

施設は「まちづくり」そのもの

雲の上のギャラリー

# 8. 慶応義塾大学との連携

## ④ 連携

平成15年に梶原町総合庁舎建築を担当していただいた一人が慶応義塾大学工学部システムデザイン工学科「伊香賀俊治教授」との出会いである。その後、伊香賀俊治教授は、国の支援を受けて平成25年から「**ゆすはら健康長寿の里づくりプロジェクト**」(健康長寿を実現する住まいとコミュニティの創造)を行政と町民と協力して立ち上げ、その成果を踏まえて高齢社会に立ち向かっている。

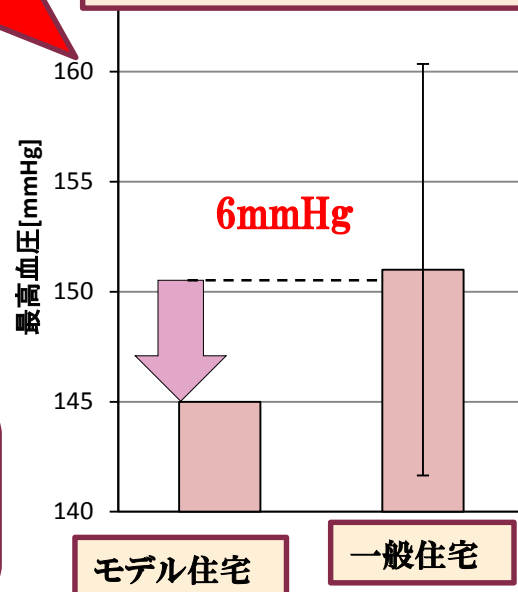


町民が宿泊体験をして、室温や血圧の違いを目と肌で学習



伊香賀俊治教授という「人」

最高血圧が6mmHg低



個人による**健康増進(1次予防)**のみの対策の限界

**健康増進(ゼロ次予防)**の対象として、**住環境**の重要性が再認識

**日本全体の40年後と同じ高齢化率に達している梶原**での取組みを通して日本のこれからとその対策について考える



### 町民の健康教室



町民の意識が変わる。

特定健診率・H26、77.5% (全国35.4%)



# 9. 関西学院大学との連携

## ⑤ 連携

平成28年5月9日に、関西学院大学と梶原、土佐清水、嶺北の三つの高校が大学卒業後は、地元に戻ることを条件にした「指定校推薦枠」を設けることで、合意し、大学と3高校長、4市町長が協定書を締結した。発案したのは、関西大学人間福祉学部の「小西砂千夫教授」であり、高知県中山間地域活性化アドバイザーを務めており、地域の人材育成に大きく貢献するところである。

奨学金制度を利用した場合は、本町はUターンと見なし返済を半額免除することとしている。また、梶原高校の魅力化の一つになると期待している。  
平成29年入学生1名予定となる。（カナダに半年留学していた学生）



## 10. 韓国・太田(テジョン)市 韓国倍材 (ペジエ) 大学と連携

⑥ 連携

「日本の地方自治と社会文化の研究」に「**金良柱 (キム・ヤンジュ)**」調査副団長が韓国倍材大学の助教授として来町して以来、日韓学生の交流の場として「**雲の上のゆすはら国際スクール**」を平成9年8月に開校。平成12年に**日韓地域づくりリーダー交流事業**がスタートした。

その学生の宿泊所として旧初瀬東小学校を改装した「**鷹取の家**」を利用することとなり、初瀬区の住民との交流が始まり、地域の活力を図ろうと、平成14年に県内在住の韓国の方や倍材大学の専門の教授を招いて、本場のキムチづくりを学び、平成15年から毎年韓国にいき交流しながら、平成26年3月に「**特定非営利活動法人 はつせ**」を設立し、韓国式サウナ、レストランを本格的に始める。雇用10人



平成27年3月4日  
OPEN



キム・ヤンジュ  
助教授という「人」

11. 地方創生とは、地方が、梶原が自らが生きる仕組みをつくることである。  
その仕組みの一つが、**地方が大学・国・県・企業と連携し関係を築き  
良いところを活かした仕組みをつくりながらまちづくりを行うことである。**

「経営」という言葉の意味は、金を儲ける活動のことでなく、経営の本質は、**社会に役立つ価値を生みだし、社会から支持されることで生き残り発展する活動のことである。**自治体も、この本来の意味の「経営」を考える団体、組織に変わる必要がある。この基本的な考え方は、官民業種業態で変わるものでない。  
**☆つまり、大学も「地域に貢献し生き残る大学」となることである。**

○大学も自治体も同じ現実 **人口減少 ・若者の都会（東京）流出 ・厳しい財政**

○**教授等の「人」の考え方、行動で地域は変わる。**  
梶原では、隈研吾教授、中川善典助教授、田中きよむ教授、原忠教授、伊香賀俊治教授、小西砂千夫教授、キム・ヤンジュ助教授である。

○若者のU I ターン就職の促進

- ・どこの大学を4年間選んでも、**Uターンする仕組みをつくる。**
- ・梶原町の場合は、月当たり奨学金は最大8万円として、4年間で3,840千円利用し、帰町すれば**半額免除**。看護師・社会福祉士・介護士等は、帰町し6年間町内に在住すれば**全額免除**している。
- ・関西大学との提携のように「**指定校推薦枠**」を**拡大**する。

12. 梶原が大学との連携交流で感じたことのまとめとして、  
地方の大学は「その地域のまちづくり」そのものである。

★そして、そこには「人」と「お金」が最も重要であり、  
その「人とお金の流れを循環させる。」ことである。  
その循環させる人、教授と自治体の長、企業のトップ  
の絆が一番重要。

そしてお金、奨学資金等  
学生を経済面で支える仕組みが重要。

★また、地域資源を活かし「地域に貢献し生き残る大学」  
となること。

★さらに、これからは地方の課題は複雑多様化しており、  
産学官民が連携し役割分担して課題を解決して  
いくことが最も望ましい姿である。  
例えば、地域にあった研究所を立ち上げる。

# 13. 大学を活かして「人の流れを循環させる。」

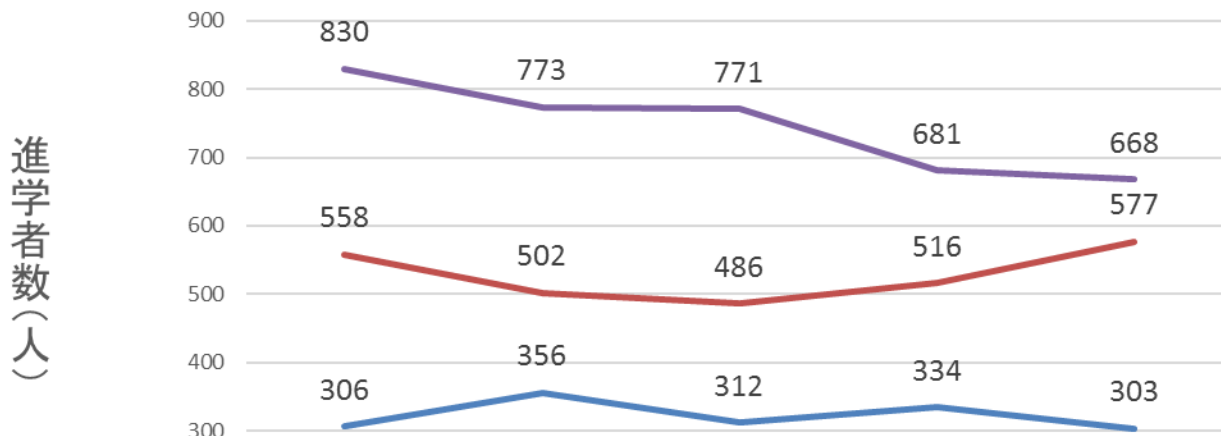
## ①高知県内大学における県内出身者・県外出身者数

	県内出身者(率)	県外出身者(率)
高知大学 (H28年度入学者)	272人(24.6%)	834人(75.4%)
高知県立大学 (H28年度入学者)	175人(47.0%)	197人(53.0%)
高知工科大学 (H29.2.1在学学生)	578人(26.9%)	1,567人(73.1%)

県外からも一定数の学生の入学がある

## ②平成20年度～28年度 高知県内高校生 地域別進学者数の推移

(文部科学省「学校基本調査」をもとに作成。地域は大学の学部の所在地による。近畿は京都・大阪・兵庫の合計。)



県内への進学率は微かだが増加傾向にある

進学者数は減少傾向だが、進学に伴って東京へ流出する若者は一定数存在する

	平成20年度	平成22年度	平成24年度	平成26年度	平成28年度
近畿	830	773	771	681	668
高知	558	502	486	516	577
東京	306	356	312	334	303
進学者合計	2,935	2,834	2,819	2,767	2,766

## 14. 大学を活かして「人とお金の流れを循環させる。」ために必要なこと。

### ★「人とお金の流れを循環させる。」には…

- 若者の東京一極集中に歯止めをかけるため、東京における大学・学部の新增設の抑制や定員管理の徹底を、地方の大学の振興とあわせて行う。
- 地方の大学が「選ばれる大学」となること。国内だけでなく世界で選ばれること。
- 大学が特色を持つこと。  
例えば高知大学であるならば「高知ならではの大学」としてブランド化すること。  
例えば、梶原であれば林業学科、環境学科、長寿健康づくり学科をつくり、循環する教育システムをつくる。
- 人口が減少となり財政が厳しさを増すとなると、ますます地方に大学を新たに設立することは困難であり、その代わりに地方と東京の対立でなく、「地方の東京」であり「東京の地方」である。この「の」を基本に大学連携を図る。
- そして、東京の大学の一部学部・学科の移転、また、一時的な学習の場でも単位が取れる仕組みをつくり、常に地方と東京を循環する教育システムもしくは、アライアンス協定を結ぶ。  
例えば、工学部建築学科の学生を一定の期間梶原で隈研吾東大教授の地域の木を使って設計した施設5ヶ所で学ぶことで、単位を与えるなど。

# 15. 「人とお金の流れを循環させる。」 学生を経済面で支える仕組み

奨学金を受給している学生： **大学で51.3%** (2014調査)

## ①高知県内大学における奨学資金受給率 (日本学生支援機構奨学金)

	奨学金受給率	休学・退学者数(H27)	受給者に占める割合
高知大学(H28)	<b>36.0%</b>	37	2.3%
高知県立大学(H27)	<b>50.9%</b>	0	0.0%
高知工科大学(H28)	<b>48.6%</b>	6	0.6%

**経済的な理由により  
休学や退学へ  
奨学金=借金**  
バイトに時間を費やし、受けたい授業を受けられない状況。

高知新聞 2017年(平成29年)2月26日(日曜日) 総合 (日刊)

日本学生支援機構の奨学金受給率

年度	高知工科大	高知大学	高知県立大
2010	36.0	48.6	50.9
2011	36.0	48.6	50.9
2012	36.0	48.6	50.9
2013	36.0	48.6	50.9
2014	36.0	48.6	50.9
2015	36.0	48.6	50.9
2016	36.0	48.6	50.9

## 県内学生奨学金負担重く

高知大、高知工科大、高知県立大、高知学短大に対し、国の奨学金事業を担う日本学生支援機構(日本育英会)の奨学金を受給する学生数を尋ねた。自治体や大学独自の奨学金もあるが、同機構の奨学金は利用者の大半を占めている。

2010年度以降の受給率(グラフ参照)のうち、工科大と高知学短大は受給率の算出可能なデータが残る13年度以降の算出可能な受給率(グラフ参照)の平均値を算出した。

高知大、高知学短大は16年度は高知学短大に過半数の50.4%、工科大も半数近い48.6%が利用していた。高知大が利用していた「第一種」は36.0%、県大は最新の15年度が50.9%だった。

同機構の奨学金は貸付と有利子の「第二種」は16年度が50.9%だった。同機構の14年度の調査によると、同機構や自治体などの奨学金を受給している学生は、大学で51.3%、短大で52.9%、同機構に限った本県の大学・短大の受給率は45.4%で、同機構以外は18.8%が併用。高知大は12.7%、工科大8.7%、県大は15年度で10.5%だった。

また、本紙は4大学短大に対し、経済的な理由で休学や退学した13・15年度の学生数を聞いた。その結果、学生数自体が多い高知大は13年度から順に休学が20人、30人、28人、退学が1人、30人、9人、18人、退学が19人が除する仕組みも必要。奨学金に加えて、返済免除の仕組みも必要。

年度	13	14	15
高知大	20	30	28
高知工科大	8	6	5
県立大	1	0	0
高知学短大	1	0	2

た。奨学金返済の負担が社会問題化する中、本県でも経済的な問題に加え、学生の実態が浮き彫りとなった。(真駒原中)に11面に連載「奨学金=借金問題」

高知学短大の「第一種」は、高知学短大の奨学金の9割以上を占めており、無利子で高知学短大の奨学金を利用する学生も多い。借金はできるだけ減らし、免除の仕組みが必要。奨学金の返済を減らしたり、返済免除の仕組みも必要。

高知学短大の「第一種」は、高知学短大の奨学金の9割以上を占めており、無利子で高知学短大の奨学金を利用する学生も多い。借金はできるだけ減らし、免除の仕組みが必要。奨学金の返済を減らしたり、返済免除の仕組みも必要。

発行所 高知新聞社  
高知市本町13丁目2-15  
088-822-2111 780-8572  
© 高知新聞社 2017

**自分の夢に向かって、安心して学ぶことのできる環境づくりが必要！**

**梶原町**

**【学資金貸付制度】**  
(貸付額) **20,000円~80,000万円/月**  
(返済の特例) **無利息**

- 卒業後、帰町すると貸付額の**半額免除**。
- 看護師、保健師、社会福祉士等の福祉、医療に従事する者は、貸付を受けた期間の**1.5倍の期間**、町内でその職に従事すると**全額免除**。

# 16. 心ひとつに取り組んだ梶原町の人口が変わりはじめた。

	西暦	和暦	人口	出生	死亡	増減	転入	転出	増減	総増減
十五年間	1957	S32	11,217	228	90	138	372	457	▲ 85	53
	1958	S33	11,214	224	94	130	310	443	▲133	▲3
	1963	S38	9,589	130	73	57	386	1,158	▲772	▲715
二十年間	1972	S47	6,564	111	85	26	318	565	▲247	▲221
	1973	S48	6,472	75	62	13	336	441	▲105	▲ 92
	1980	S55	5,763	54	57	▲3	213	319	▲106	▲109
	1993	H5	4,778	48	70	▲22	206	171	+35	+13
十九年間	1994	H6	4,759	32	57	▲25	185	179	+ 6	▲19
	2008	H20	4,010	22	64	▲42	90	123	▲33	▲75
	2012	H24	3,750	27	84	▲57	118	114	+ 4	▲53
	2015	H27	3,650	19	75	▲56	172	127	+49	▲ 7

- ①昭和33年より人口が減少となり、15年間は毎年平均310人減少してきた。
- ②昭和48年の92人減少から20年間は、毎年平均85人減少と100人以下となってきた。
- ③そして、平成5年には、人口はプラス(+13人)に転じた。
- ④そして、19年経過し平成24年には、社会動態はプラス(+4人)に転じた。
- ⑤さらに、平成27年には、総人口がマイナス7人と人口減少に歯止めがかかり始めた。



# 17. そして、今、人口減少に歯止めがかかりはじめた梶原町。

## 梶原町 人口減に歯止め

### 4月 前年比1人減

平成27年4月末の人口は、前年比で、▲1人の減少にとどまる。



梶原町が移住者向けに改修した住宅

## 43人移住、高校生も20人増

町によると、住民基本台帳の記録が残る1995年以降、町人口は58年の約1万1200人をピークに減少。64年に1万人に、町からの紹介住宅に

【須崎】県内市町村が軒並み人口を減らす中、高岡郡梶原町の4月末の人口（3692人）が、前年同期比で1人のみの減少にとどまったことが24日までに分かった。過去10年は年間50〜90人程度減っていたが、この1年は移住支援策が功を奏し、町外から43人が移住した。加えて、梶原高校への入学生も例年より20人ほど増加し、減少幅を押しとどめた。（山本 仁）

町によると、住民基本台帳の記録が残る1995年以降、町人口は58年の約1万1200人をピークに減少。64年に1万人に、町からの紹介住宅に人、90年に5千人を割り込み、2010年には4千人を下回った。そのため町は、11年度に策定した町総合振興計画で、人口目標を「20年度に4千人」と明記。子育てや教育環境の整備、移住者支援への取り組みに力を入れてきた。移住者支援では、空き家を家主から10年契約で家が無償で借り受け、リフォームして移住者らに貸し出す事業に13年度に着手し、今年4月末までに16棟を改修。1年間で計37人が移住した。さらに、町からの紹介住宅に

が住民票を移して寮などに入居している。同校などによると、昨夏の全国高校野球選手権の県大会で8強入りした野球部への入部生が増えたという。矢野富夫町長は「都会の人の価値観などを調査し、移住者に『選ばれる町』を目指す。健康や教育、環境をキーワードに、ソフトとハード両面がそろった受け入れ態勢をつくり、人口減少に立ち向かっていく」と話している。



空き家改修



地域包括ケアの充実



4:3:2小中一貫教育



高校野球部創設10年目

「自分たちでできることは自分たちでする。」

このことが梶原人の生きる基本であります。



坂本龍馬脱藩  
1862年3月26日

龍馬たちが新しい日本の夜明けを夢見て梶原から脱藩して百五十年の時がながれました。今、梶原人は、町民みなで心を一つにして、新しいまちづくり挑戦しています。どうぞ、今後ともご指導ご支援をお願い申し上げます。

(参考資料4-1)

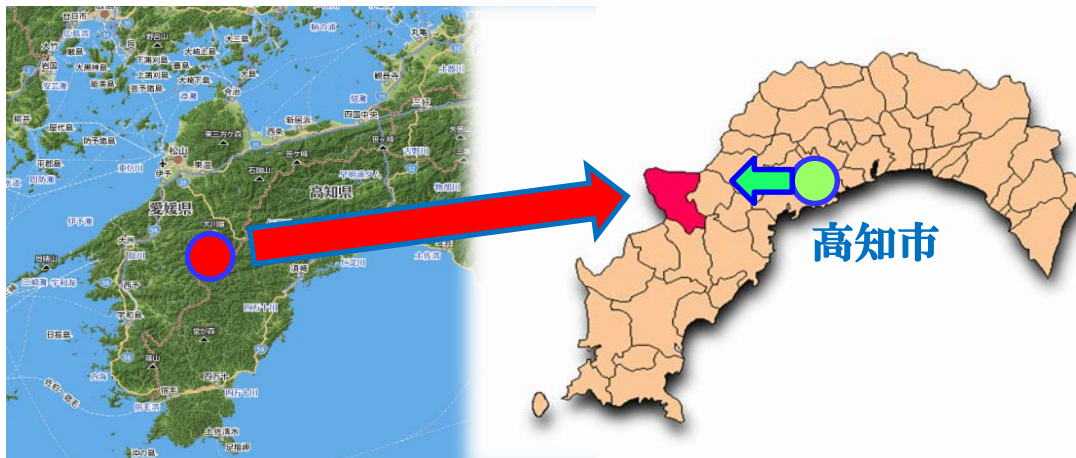
平成29年3月2日

地方大学の振興及び

若者雇用等に関する有識者会議

# 梶原町の概要

# 1. 梶原というところ (町の人口・面積・歩み)



1100年  
の歴史

つねたかくん  
(津野経高)



高知県の西北部、愛媛県との県境の町。  
日本三大カルストの一つ、四国カルスト台地の山々に包まれた裾野を清流四万十川がゆるやかに流れる源流の町。

☆ 高知市・松山市より車で90分

- 人口:3,650人 (H28年3月末住基台帳)
- 高齢化率43.0%
- 面積:23,645ha (内91%が森林)
- 町中心地標高 410m

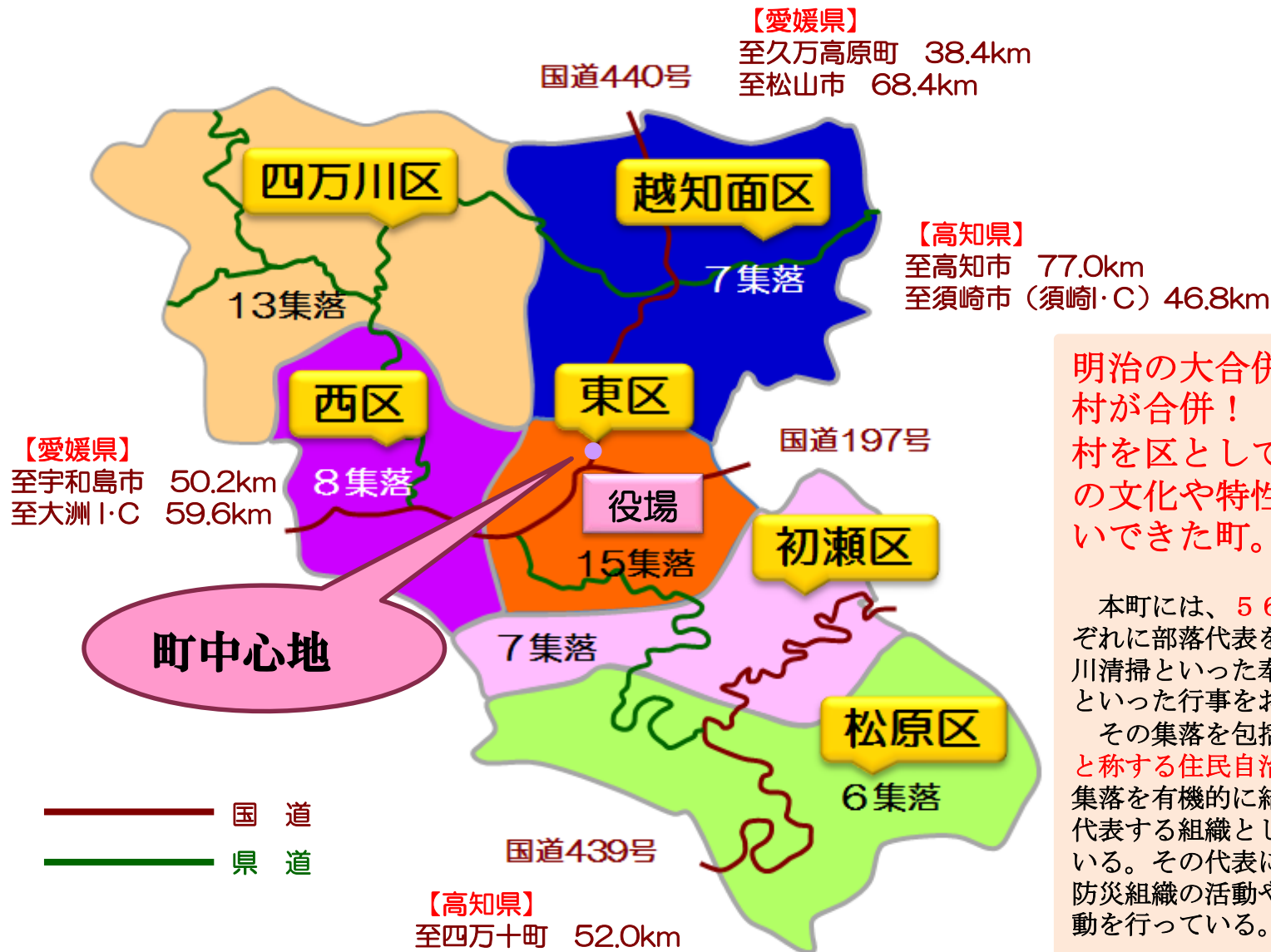
- 913年(延喜13年)  
津野経高公 津野荘築く
- 1600年(慶長5年)  
梶原6ヶ村+東津野3ヶ村  
をもって「津野山郷」と称す

- 1871年(明治4年)  
明治維新の変遷を経て高知県の所轄
- 1889年(明治22年)  
梶原、越知面、四万川、初瀬、中平、松原の6ヶ村が統合し「西津野村」
- 1912年(明治45年)「梶原村」に改名
- 1966年(昭和41年)町政施行「梶原町」

## 2. 梶原というところ (町の形・六つの区・幹線道路)

梶原町は、**6区**、**56集落**で支え合う町

縦直線20km×横直線12km



明治の大合併により、6つの村が合併！  
村を区として残し、それぞれの文化や特性を残し、引き継いできた町。

本町には、56の集落が存在し、それぞれに部落代表を置き、集落の道路や河川清掃といった奉仕活動や地域の祭り事といった行事をおこなっている。

その集落を包括する組織として「区」と称する住民自治組織が存在し、集落と集落を有機的に結びつけるなど、住民を代表する組織として重要な役割を担っている。その代表に「区長」を置き、自主防災組織の活動や健康づくりといった活動を行っている。

### 3. 梶原町というところ(町の中心地)

少しオシャレな町に

役場

街路灯等小水力発電

電線地中化



橋は木橋

清流四万十川

#### 4. 町の方向を定めるために、**住民の思い**を聞き取り調査した。

(1) **平成22年度に全職員が全ての住宅に伺い不安・思いを直接聞き取り調査した。**

そのアンケート調査の集計・分析と毎年の意見交換会を踏まえて町民が困っていることを大きく分類整理した。

(2) 大きく6項目となった

命の道の整備

命の水の確保



- ①交通手段が不十分
- ②飲み水や生活用水の質や量が不十分
- ③雇用の不足
- ④道路の危険箇所が存在
- ⑤生活費が足りない
- ⑥野生動物による農業被害

(3) 大きく①②が解消されたら97%の住民が地域で一生過ごしたいと答えた。

そして、ビジョンをつくり、政策を打ち出し実行を見える化してきた

5. そして2020年に向かって、課題解決のために  
梶原町の目指す社会を、2011年（まちづくり）に定めた。

## 六つの言葉をキーワードに 六つの社会を目指す

町民皆で策定した、梶原町総合振興計画  
～人と自然が共生し輝く梶原構想～

(1) 梶原ならではの保健・医療・福祉が充実した社会

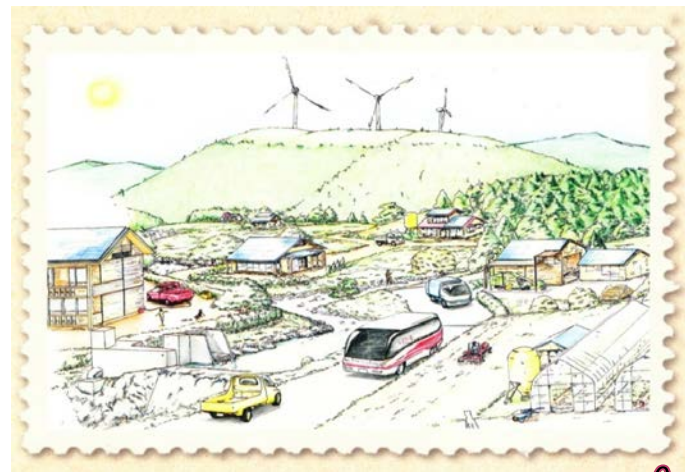
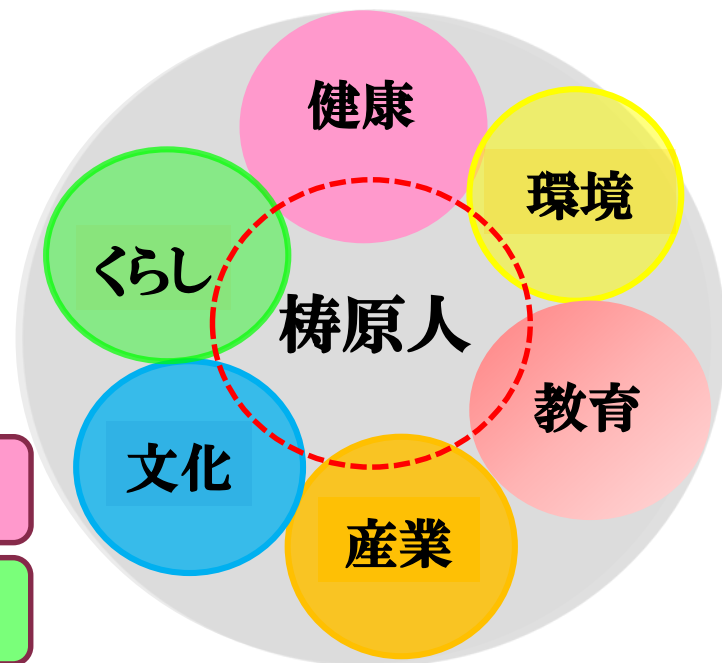
(2) 高齢化と過疎地域でも災害に強い社会

(3) 暮らしの安定と産業の振興・発展した社会

(4) 自信あふれる梶原人を育てる教育の確立した社会

(5) 人の尊厳が守られ「絆」を大切にする社会

(6) 「対話と満足度」を高める役場がある社会





6. さらに、課題解決と未来に梶原町を引き継ぐために、  
梶原町の自治経営の考え方の基本を定めた。

## ☆自治の基本は「自立」である。

- ・自立とは、自分で完結することだけでなく、周囲と様々な関係を築き、資金の提供を受け、それに見合う価値を生みだしている状態のことである。
- ・その価値とは、財貨のみのことだけでなく、人が役に立っていると思う物やサービスのことである。
- ・「自分でできることは、自分で行う」ことが梶原人である。

## ☆全ての考え方を、

- ①地域資源を活かす。(人、物、自然も)
- ②自然と共生と循環。
- ③成果をおさめる仕組みをつくる。

## ☆その手段として、

- ①目的を共有する。(具体的にわかりやすくする)
- ②コミュニケーションを図る。
- ③協働作業をする。

7. 第六次栲原町総合振興計画の六つの目指す社会の一つを、  
「(4)自信あふれる栲原人を育てる教育の確立した社会」とした。

栲原人とは

栲原人とは、ただ単に栲原に生まれたとか、育った、住んでいるといったことではなく、

- ①正しいもの、美しいものをきちんと見極めることができる。
  - ②勇気を持って行動ができ、他人の痛みのわかる優しさを持っている。
  - ③進取の気性に富み、未知の世界に臆することなく挑戦する。
- こうした資質を持ち合わせた「人」を指します。



目指す社会への手段は

- ・地域の良き伝統や文化を引き継ぐ教育・志を持つ教育・国際的にも通用する会話力を身に着ける教育
- ・生涯学習として学び続けることができるための国内外を問わない、**大学等の教育機関と連携**による学びの場や職場における学びの場で学習意欲を高める仕組みをつくり、自己実現を目指す人に成長できるよう努める。



「町内全域を学びの場・ゆすはらキャンパス」

# 8. ゆすはらキャンパスにある活かす地域資源とは。

人

梶原人



森林



森

水

日本の夜明けを目指した  
8志士の群像「維新の門」

群像



千枚田(棚田)



大地

芝居小屋「ゆすはら座」



文化

「津野山神楽」



交流

日本初オーナー制度



おもてなし

「茶堂」



生活  
施設

風

人・自然・施設等全てを活かす。



## 9. 自信あふれる梶原人を育てる教育の確立した社会を目指しています。 「保幼小中高一貫教育」を目指す。「小中一貫6：3制を4：3：2制」に変更。

学

学ぶ・育くむ

- 子どもの誕生・保育・幼稚園
  - ・誕生祝福金 10万円
  - ・保育園費、幼稚園費、給食費 全て無料化
  - ・医療費0歳から15歳まで無料
  - ・英語教育実施
- 小中一貫教育
  - ・梶の木寮入寮費の個人負担 (月当たり：1,500円)
  - ・中学夏休み海外へ8名短期留学。(個人負担7万円)
- 高校
  - ・1年間海外留学に1人100万円支援
  - ・奨学資金貸付事業 月2万から8万円 帰町すると半額及び全額免除。

学習の流れ

誕生

0歳～6歳  
梶原町立  
梶原こども園

7歳～15歳  
梶原町立  
梶原学園

16歳～18歳  
高知県立  
梶原高等学校

18年間で子どもを育てる  
(発達段階に応じた系統的・継続的な取り組み)

# 10. 「生きものに優しい低炭素なまちづくり」を目指しています。

## ＜環境モデル都市の目標（2009年1月23日認定）＞

「森の資源が循環する公民協働の“生きものに優しい低炭素なまちづくり”」の実現

### ①再生可能エネルギー自給率100%を目指す(現在約30%)



### ② CO2の排出削減と森林のCO2吸収率を高める。

☆2050年にCO2排出量を1990年基準  
(23,634t-CO2)の70%削減

☆2050年にCO2吸収量を1990年基準  
(16,200t-CO2)の4.3倍増

☆化石燃料からのエネルギー転換、森林整備  
により森林吸収を高める。

### ③ 梶原町廃棄物減量等推進委員 15名

生ごみをペレットに製造



廃油を車の燃料(BDF)



し尿を堆肥に製造

